

未来のわたしに向かって めざせ！「高校デビュー」

県立船橋古和釜高等学校長 かつい よういち
勝井 洋一



1 はじめに

本校は、創立 38 年目を迎える、船橋市北部に位置する普通科 18 クラス規模の高等学校である。平成 27 年度に千葉県から「地域連携アクティブスクール」の指定を受け、三年目を迎えた。多くの生徒が、中学校時代の「勉強がわからなかった」「学校に行けなかった」「人付き合いが苦手」などの問題を克服して「高校デビュー」を果たしている。現在、高校で学び直し、自立した社会人を目指して学習に取り組んでいる。

2 地域連携アクティブスクールとしての 特色ある取組

本校では、「学び直し」「実践的なキャリア教育」「地域連携」「教育相談体制」の 4 本柱を軸に、厳格な生徒指導と、きめ細かな教科指導の特色ある取組の実践を長年行っている。この努力が実を結び、昨年度「文部科学大臣表彰」の栄誉に輝いた。

(1) 学び直し

教育課程に学校設定科目を設け、中学校からの基礎・基本（国語・数学・英語）の学び直しを展開している。1 年生は必修形式、2 年生・3 年生には選択形式である。

(2) 実践的なキャリア教育

コミュニケーション能力の伸長を目指し、三年間を通じたソーシャルスキルトレーニングを年間教育指導計画に位置付け、実施している。

就業体験では 2 年生全員が 6 月に三日間、事業所で体験活動を実施している。事業所は

70 カ所を超える。将来の職業観育成、職業選択能力の伸長も狙いのひとつである。平成 28 年度末の進路決定率は 98.8% であった。

(3) 地域連携

音楽系部活動による小・中学校等との合同音楽祭、運動系部活動による合同大会を開催して好評を博している。地域自治会と連動した防災訓練実施の他、地域清掃活動、福祉団体訪問、地区の行事への参加や、本校職員による出前授業を実施している。これらの取組により「地域とともに歩む学校」としての姿勢が明確に地域の方々に伝わっている。そして、それが「地域とともに地域を創る学校」に向けた信頼へと繋がっている。

(4) 教育相談体制

教育相談体制の一層の強化、いじめ根絶、中・高連結した途切れのない支援に向け、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの機能を高めている。更に八千代特別支援学校との連携強化にも努め、組織体としての教育相談体制の充実を図っている。

3 おわりに

これらの取組に対して、保護者による学校評価項目「本校に入学させて良かった」において 94% の方々から「満足している」との回答を得た。この結果に応えるべく、本校の全職員は、学校と家庭と地域の連携を一層密にしながら、更に一層努力し、保護者の皆様の期待に必ず応えていくものと私は確信している。

提

言

道徳、それは心のあたたかさ と良き出会い

シンガーソングライター おおの やすゆき
大野 靖之



僕は小・中学校、高校で「学校ライブ」をやっているシンガーソングライターです。出身地である千葉県から始まったこの活動も熊本県以外の46都道府県までに拡がり、現在924回を超えました。文化祭や芸術鑑賞会という名目もゼロではありませんが、多くが道徳教育の一環として御依頼を受けています。専門的にその分野を勉強しているわけではありません。しかし、たくさん子どもたちの前に立ってきて見つけることができた僕なりの考えをいくつかお話できたらと思います。

僕だけではなく、こうした外部の人間が来校する取組は近年とても増えてきたように感じています。主旨は様々でしょうが、できる限り子どもたちにいろんな人たちと触れ合って欲しいという想いの表れだと思っています。先日、ある先生が僕にこんなことをおっしゃいました。「生徒に素敵な出会いを提供するのも、私たち教師の仕事です」と。すばらしいお考えだなと思いました。今の時代、インターネットやSNSを通して、子どもたちはいろんな世界を見ることができているかもしれません。しかし、やはり大切なのは、生の音楽に触れたり、人と人とのリアルな出会いやあたたかい交流です。命の大切さや、夢を持つことのすばらしさなど、子どもたちに伝えたいメッセージはたくさんありますし、それらを学校から求められますが、僕としては何よりも彼らにとって「良き出会い」でありたいと思っています。

話が前後してしまいましたが、2003年の夏、千葉県多古町で行われた詩人相田みつをの御子息である相田一人氏の講演会の前座でライブをしました。その時にいらしていた富里市立富里中学校の先生に、ライブが終

わった後声を掛けていただいたのです。「大野さんの歌を生徒たちに聴かせたいので、学校に歌いに来てくれますか？」と。高校3年の時、僕の母は乳がんで亡くなりました。そんな母の闘病中のことや、亡くなった時の気持ちを歌にした「天使の舞い降りた朝」という作品が、その先生を突き動かしたのです。それが学校ライブを始めるきっかけとなりました。当時まだ21歳。そんな若いミュージシャンを授業に招いた先生の勇気や行動力には、今思うと感心してしまいます。特に印象的だったのは、「天使の舞い降りた朝」を歌ってくれば、あとは自由にやってもいいとおっしゃっていたこと。その先生もまた、愛する生徒たちへ「良き出会い」を届けたかったのかと思います。

長い人生の中ではそんな出会いは一瞬の出来事です。けれどその一瞬が、彼らの人生を決めるかもしれません。世の中には様々な職業があって、たくさんの選択肢や生き方があるということ。そんなことを直接肌で感じてもらうことで、子どもたちの世界を広げてあげられたらといつも願っています。

中高生たちが被害者や加害者になってしまう、痛ましい事件や事故が後を絶ちません。何故そのような悲しい出来事が起きてしまうのか。僕は「寂しさ」が原因だと思っています。いじめる側が、以前はいじめられていた側だったというケースも多いと聞きます。ネットで有名人を誹謗中傷したりするのも、大人の世界の立派ないじめであり、その根源もやはり心の寂しさであると僕は思えてならないのです。

座間市で9人もの若者を殺めた恐ろしい事件がありました。彼女たちが被害者になってしまったきっかけこそまさに寂しさであ

り、それにつけこまれて事件は起こりました。犯罪者もまた、人知れず大きな寂しさを抱えていたのでしょう。

「心があたたかく感じるもの」、それが道徳だと僕は思っています。友達に優しくされたことや、先生が自分のために真剣に叱ってくれたこと。してもらったことだけでなく、電車でおばあちゃんに席を譲っている人を見た時や、感動的な出来事を耳にした時、心はとてもあたたかくなるはずです。難しいことはあまり分かりませんが、僕たちの心があたたかく感じるものは全て、「道徳的」と言えるのではないのでしょうか。逆に冷たく感じるのであれば、それはきっと道徳的ではありません。

音楽には人の心をあたためる、そんな大きな力があります。しかし学校ライブに限っては、音楽の好みは様々だし、ある意味では強制的にその場にいないといけないのですから、もしかしたら好きでもない歌を聴くことが苦痛な子だっているかもしれません。家庭でのことや進路の悩みで、ライブどころではない子もきっといるでしょう。ですので、全ての生徒たちに僕の歌が届いているなんて思っているではありません。彼らにとって良き出会いでありたいと思いながら、それについても受け取る側の自由であると、ライブ中はそんな謙虚さを忘れないようにしています。それでも、難しい年頃である中学生たちが、思い切り笑ったり、感動して涙を流したりする姿を今までたくさん見てきました。少なくとも、その時の彼らの心はきっとあたたかい状態であると思うし、僕との出会いがかけがえのないものになると信じています。

もともとは、ただシンガーソングライターとしてメジャーデビューをして、歌番組に出て有名になりたいと思っていた僕にとって、この学校ライブという活動に意味を見出せずに葛藤する時期もありました。2005年に運よくメジャーデビューをすることができましたが、その後も学校ライブの御依頼は増え続け、気がつけば日本全国を駆け回る日々を追われ始めていきました。実は

デビュー曲が「心のノート」という歌で、これは当時道徳の副読本であった「心のノート」をもとにした作品なのです。音楽関係者の中には、大野靖之のイメージが決まってしまうことへの心配を口にする者もいましたが、楽曲のすばらしさを信じ、デビュー曲へと踏み切りました。学校ライブが全国に広がっていった理由は、やはりこのデビュー曲の影響力が大きいのではないかと思います。

たくさんの学校から必要とされることを有難いと思う反面、いっこうに有名にならないことや、CDがヒットしないことに苦しみ、この活動が一体何を生み出しているのか悩む日々は続きました。けれど、続けてきたこの14年間でようやく目に見える形で「やってきて良かった」と思う出来事が増え始めました。近年学校ライブで高校に行くと、終わった後必ず何人かの生徒が僕に声を掛けてくれます。小学生の頃学校で観て、今日で2回目だということです。中には小・中・高の3回学校ライブを経験したという声も聞いたことがあります。そんな声を聞くと僕も胸が躍りますし、何よりもずっと覚えていてくれていることがたまらなく嬉しいのです。

その時すぐに感動の言葉や心の声が僕の耳に入らなくても、きっとそれぞれの心の中に何かを残すことができているのかもしれないと、そんな大切なことに気付かされました。いつの日か彼らが大きくなった時、ふとした瞬間僕のライブを思い出してくれたらそれでいいのです。目に見えるものが全てではないと、彼らから教えられました。大事なことは、目に見えるものだけに捉われないこと、そして結果を急いではいけないということなのです。烏澁がましいかもしれませんが、先生方のお仕事とどこか通じるものがあるのではないかと勝手に思っています。「良き出会い」であったかどうか、心に残せたかどうか、それはきっと長い年月を経て、わかっていくものなのかもしれません。